

明日 への 話題

ブレイクスルー



SMBC日興証券
代表取締役社長

くぼ てつや
久保 哲也

1%のひらめきと99%の努力、エジソンの有名な言葉である。たった一つのアイデアによって劇的に状況が変わっていくことがある。しかし、その背景には状況が行き詰るまで煮詰められている土壌がある。その背景があつてこそ、一つのアイデアがあたかも最後のピースであったかのように、劇的に状況を変えうるのだと思う。そして、日本の市場を見たとき、今まさにそのような状況ではないかと感じている。長いデフレで行き詰っていたものが動き出すブレイクスルーのタイミングを迎えているのではないかと。

我が国の成長戦略として様々な施策が考えられているが、基本となるのは我が国の強みを存分に活かしていくことだと思う。金融市場について言えば、我が国には1,600兆円を超える個人金融資産が存在する強みがある。この数字は、アメリカに次いで世界で2番目であり、3番目のイギリスの2倍以上である。日本の市場のポテンシャルは極めて大きい。

しかし、これまで、我が国はこの強みを十分に発揮できていなかった。実際に、東証1部では売買代金の7割は外国人投資家であり、アベノミクスによる上昇相場でも、外国人投資家が大きく買い越した一方で、国内投資家は売り越しとなっていた。もしも、国内の金融資産がこの流れに加わっていれば、さらに大きな相場となっていただろう。

その中で、本年よりNISAが始動した。市場関係者からNISAに寄せられる期待は極めて大きい。外国人投資家もNISAの動向に注目している。外国人と話をしたとき、NISAについてしばしば聞かれる。NISAにより日本の株式市場が劇的に変わるかもしれない、そう感じとっているのだろう。さすがに、彼らの目は鋭い。

NISAのモデルとなった英国ISAでは、対象となる18歳以上の国民の約半数がISA口座を保有している。仮に、日本のNISAが英国ISA並みに普及すれば、約5,000万人がNISA口座開設者となる。大げさな試算ではあるが、5,000万人という数字に非課税枠の100万円をかければ、50兆円というとてつもない金額になる。これは、実にアベノミクスにわいた2013年の外国人投資家による買い越し額の3倍以上の金額である。

日本の個人金融資産が成長マネーに向かった時、経済の好循環が生まれ、日本の成長力が高まっていく。NISAはそのブレイクスルーをもたらすトリガーとなる可能性を秘めている。